

## 60分でわかる旧約聖書(33) 「ミカ書」

### 1. はじめに

#### (1) ミカ書の位置づけ

##### ①大預言書 (the Major Prophets)

\*イザヤ書、エレミヤ書、哀歌、エゼキエル書、ダニエル書

##### ②小預言書 (the Minor Prophets)

\*ホセア書からマラキ書までの12書。

##### ③ミカ書は、捕囚期前預言書(12)のひとつである。

#### (2) ミカという人物(1:1)

**Mic 1:1 ユダの王ヨタム、アハズ、ヒゼキヤの時代に、モレシエテ人ミカにあった【主】のことば。これは彼がサマリヤとエルサレムについて見た幻である。**

①ミカはミカイヤの短縮形である。「誰が【主】のようであろうか」

②彼は、前8世紀の預言者

\*イザヤと同時代の預言者(恐らくイザヤの友人)

\*イザヤは都会の預言者、ミカは田舎出身の預言者である。

③彼の出身地は、モレシエテ・ガテと呼ばれる町(エレ26:18)。

\*エルサレム南西30キロにある町

#### (3) ミカが活動した時代

①ユダの王ヨタム、アハズ、ヒゼキヤの時代

\*ヨタムは、短命の王であった。

\*アハズは悪王で、ユダ(南王国)に偶像礼拝をもたらした。

\*ヒゼキヤは善王であった。

②ミカは、アッシリヤの攻撃という文脈の中で、【主】のことばを民に伝えた。

③ミカの預言は、主にサマリヤ(北王国)に関するものであった。

\*聴衆は、主にユダ(南王国)の住民たちであった。

### 2. アウトライン

#### I. メッセージ1: 迫り来る裁き(1~2章)

1. 裁きの預言

2. 嘆き

3. ユダの罪

4. 回復の預言

#### II. メッセージ2: 裁きの後に来る祝福(3~5章)

1. 指導者たちに下る裁き

2. 御国の祝福

Ⅲ. メッセージ3: 罪の糾弾と祝福の約束(6~7章)

1. 罪を裁かれる【主】

2. 回復の約束

結論

1. 時代背景

2. 裁きの基準

3. イスラエルの残れる者

ミカ書の内容について学ぶ。

I. メッセージ1: 迫り来る裁き(1~2章)

1. 裁きの預言(1:2~7)

**Mic 1:2** すべての国々の民よ。聞け。／地と、それに満ちるものよ。耳を傾けよ。／神である主は、あなたがたのうちで証人となり、／主はその聖なる宮から来て証人となる。

(1) 神の法廷のイメージ

①法廷が招集される。

②「聞け」(ヘブル語のシャマ。申6:4参照)で始まっている聖句

\*1:2、3:1、6:1。ミカ書の3区分の始まりとなっている。

③神は、世界を証人に招いて、被告人(イスラエルの民)を裁こうとしている。

④神の裁きの結果

**Mic 1:4** 山々は主の足もとに溶け去り、／谷々は裂ける。／ちょうど、火の前の、ろうのように。／坂に注がれた水のように。

\*サマリヤ(北王国)は滅亡し、その民はアッシリヤ捕囚に引かれて行く。

(2) 裁きの理由

①偶像礼拝の罪。神の目から見ると霊的姦淫に当たる。

②裁かれるのはサマリヤだけではなく、ユダもまたそうである。

2. 嘆き(1:8~16)

(1) アッシリヤはサマリヤ(北王国)を征服した後、ユダにまで迫って来る。

①ミカは、喪に服す。「はだしで、裸で歩こう」

②ミカは、ユダの地が荒れ果てることを思い、嘆き悲しむ。

\*アッシリヤの侵攻では、エルサレムは滅びない。

\*ユダの地の荒廃は、最終的にはバビロンの侵略によって成就する。

(2) 預言者たちに聞き従わないなら、神の民には希望はない。

①それはまことに「いやしがたい打ち傷」である。

### 3. ユダの罪(2:1~11)

- (1) 裕福な上流階級の人たち(指導者たち)が、弱者を搾取している。
- ①彼らの罪の本質は、食欲である。
  - ②イザヤは都会での状況を語り、ミカは田舎での状況を語っている。
  - ③この時代、都会から田舎に至るまで、食欲の罪が国中に蔓延していた。
- (2) 神は、民の「道徳的罪(悪)」に対して「わざわざ」をもって応える。
- ①敵がやって来て、彼らの土地を略奪する。
  - ②その土地は、元は貧しい者たちから奪ったものである。

### 4. 回復の預言(2:12~13)

**Mic 2:12** ヤコブよ。／わたしはあなたをことごとく必ず集める。／わたしはイスラエルの残りの者を必ず集める。／わたしは彼らを、おりの中の羊のように、／牧場の中の群れのようにつみに集める。／こうして人々のざわめきが起ころう。

- (1) ユダは裁きに会うが、神は、ご自身の民を見捨ててはおられない。
- ①「イスラエルの残れる者」の存在。救いを受ける真の信仰者たち
  - ②大患難時代の最後に、ユダヤ人の3分の1が残る(ゼカ13:8~9)。
  - ③彼らは、「逃れの地」に避難するので生き残る。
    - \*「おりの中の羊」とは、「ボツラの羊」である。
    - \*イスラエルの民が逃れる場は「ボツラ」である。
    - \*ここは現在のヨルダンのペトラという町である。
- (2) この預言は、ミカの時代の「残れる者」たちを大いに励ました。

## II. メッセージ2: 裁きの後に来る祝福(3~5章)

### 1. 指導者たちに下る裁き(3章)

- (1) イスラエルの家の指導者たち
- ①彼らは、神の御心を知りながら、それとは正反対のことをしていた。
  - ②彼らは、民衆を搾取し、苦しめていた。
  - ③彼らは、民を苦しめながら、厚かましくも【主】の助けを求めて祈った。
- (2) 偽預言者たち
- ①彼らは、民を導く代わりに彼らを惑わせ、偽りの道へと導いていた。
  - ②彼らは、自らの賜物を、私腹を肥やすために用いていた。
  - ③彼らは、神からの答えがないので、すべて恥を見る。
  - ④真の預言者は、人を恐れず、勇気をもって神の義と裁きを宣言する。

### 2. 御国の祝福(4~5章)

**Mic 4:1** 終わりの日に、／【主】の家の山は、山々の頂に堅く立ち、／丘々よりもそびえ立ち、／国々の民はそこに流れて来る。

**Mic 4:2** 多くの異邦の民が来て言う。／「さあ、【主】の山、ヤコブの神の家に上ろう。／主はご自分の道を、私たちに教えてくださる。／私たちはその小道を歩もう。」／それは、シオンからみおしえが出、／エルサレムから【主】のことばが出るからだ。

**Mic 4:3** 主は多くの国々の民の間をさばき、／遠く離れた強い国々に、判決を下す。／彼らはその剣を鋤に、／その槍をかまに打ち直し、／国は国に向かって剣を上げず、／二度と戦いのことを習わない。

(1) エルサレムの高揚

- ①3:12は、エルサレムの荒廃を預言していた。近い将来に起こる出来事。
- ②4:1～5は、エルサレムの高揚を預言している。遠い将来に起こる出来事。
- ③この預言は、メシア的王国の到来を告げたもの(イザ2:1～4と同じ)。

(2) エルサレムは、異邦人諸国の注目の的となる。

- ①異邦人たちは、エルサレムに上って来るようになる。
- ②その目的は、メシアから直接教えを聞き、その道を歩むためである。

(3) メシア的王国では世界的平和が訪れる。

- ①メシアが国際紛争を裁き、公平な判決を下すからである。
- ②すべての争い事が解決されるので、戦争の仕方を学ぶ必要がなくなる。

(4) メシアの出現

**Mic 5:2** ベツレヘム・エフラテよ。／あなたはユダの氏族の中で最も小さいものだが、／あなたのうちから、わたしのために、／イスラエルの支配者になる者が出る。／その出ることは、昔から、／永遠の昔からの定めである。

- ①メシア誕生の地は、ユダ部族の領地にあるベツレヘムである。
- ②この聖句は、メシアが人間として誕生することを教えている。
- ③メシアは、人性と神性の両方を持っている。

\*イザ9:6～7、エレ23:5～6などでも預言されている。

- ④イエスがベツレヘムで誕生されることが、700年も前から預言されていた。

**Mat 2:5** 彼らは王に言った。「ユダヤのベツレヘムです。預言者によってこう書かれているからです。」

**Mat 2:6** 『ユダの地、ベツレヘム。／あなたはユダを治める者たちの中で、／決して一番小さくはない。／わたしの民イスラエルを治める支配者が、／あなたから出るのだから。』

### Ⅲ. メッセージ3: 罪の糾弾と祝福の約束(6～7章)

#### 1. 罪を裁かれる【主】(6章)

(1) 【主】のことば

- ①【主】の側には何の落ち度もない。

②イスラエルの民に残されている道は、罪を告白し、悔い改めることだけ。

(2) 民の言葉

①彼らの罪の認識は表面的なもので、不十分である。

②彼らは、【主】にささげるいけにえの可能性を数え上げている。

\*「全焼のいけにえ」、「一歳の子牛」、「幾千の雄羊」、「幾万の油」

\*「私の犯したそむきの罪のために、私の長子をささげるべきだろうか」

③内面的な悔い改めがないなら、いけにえが神に喜ばれることはない。

(3) ミカの言葉

**Mic 6:8** 主はあなたに告げられた。／人よ。何が良いことなのか。／【主】は何をあなたに求めておられるのか。／それは、ただ公義を行い、誠実を愛し、／へりくだって／あなたの神とともに歩むことではないか。

①「公義を行い」とは、モーセの律法を正しい動機で実行すること。

②「誠実を愛し」とは、隣人愛の実践。

③「あなたの神とともに歩む」とは、日々神との交わりを楽しむということ。

2. 回復の約束(7章)

**Mic 7:11** あなたの石垣を建て直す日、／その日、国境が広げられる。

**Mic 7:12** その日、アッシリヤからエジプトまで、／エジプトから大川まで、／海から海まで、山から山まで、／人々はあなたのところに来る。

(1) エルサレムの回復と拡張の預言

①回復の時になると、2つの主要な国からイスラエルの民が帰還して来る。

\*アッシリヤとエジプト

②民は、【主】が自分たちの羊飼いとなつてくださるようにと祈る。

(2) ミカの祈り

**Mic 7:18** あなたのような神が、ほかにあるでしょうか。／あなたは、咎を赦し、／ご自分のものである残りの者のために、／そむきの罪を見過ごされ、／怒りをいつまでも持ち続けず、／いつくしみを喜ばれるからです。

**Mic 7:19** もう一度、私たちをあわれみ、／私たちの咎を踏みつけて、／すべての罪を海の深みに投げ入れてください。

**Mic 7:20** 昔、私たちの先祖に誓われたように、／真実をヤコブに、／いつくしみをアブラハムに与えてください。

①彼は、自分の名前を使って、言葉遊びをしている。

②イスラエルの民をエジプトから救出した方は、偉大な神、比類なき神である。

③出エジプトを下敷きに、終末時代のイスラエルの救いについて語る。

④終末時代における救いも、アブラハム契約に基づいて行われる。

⑤メシアであるイエスの誕生もまた、アブラハム契約に基づいたものである。

⑥ 私たちも、主イエスを通してアブラハム契約の「霊的祝福」に与っている。

## 結論

### 1. 時代背景

- (1) 前8世紀までは、イスラエルとユダは、古典的農業経済であった。
  - ① 富の分配が比較的平等に行われていた。
- (2) 次第に食欲な物質主義が支配するようになり、貧富の差が広がって行った。
- (3) 裕福な地主はより裕福になり、農民たちはより貧しくなって行った。
- (4) 農民たちは都市に逃れ、そこで上流階級の搾取を受けることになった。
- (5) 外国との商取引により、偶像礼拝と墮落した道徳観が持ち込まれた。
- (6) 以上のことは、教会が現在直面している問題そのものである。

### 2. 裁きの基準

- (1) モーセの律法である。
  - ① モーセの律法は、シナイ契約の条項である。
  - ② それに従うなら祝福が、背くなら呪いが下る(申28章)。
  - ③ 罪の赦しは、心の割礼といけにえによって与えられる。
- (2) 新約聖書の信者には、キリストの律法が適用される。
  - ① キリストの律法は、新しい契約の条項である。
  - ② 罪の赦しは、罪の告白によって与えられる。

### 3. イスラエルの残れる者

- (1) 裁きの預言と、それに続く回復の預言
- (2) 3つのメッセージのすべてに、「イスラエルの残れる者」が出てくる。
  - ① 第1のメッセージ

**Mic 2:12** ヤコブよ。／わたしはあなたをことごとく必ず集める。／わたしはイスラエルの残りの者を必ず集める。／わたしは彼らを、おりの中の羊のように、／牧場の中の群れのように一つに集める。／こうして人々のざわめきが起ころう。

#### ② 第2のメッセージ

**Mic 5:7** そのとき、ヤコブの残りの者は、／多くの国々の民のただ中で、／【主】から降りる露、／青草に降り注ぐ夕立のようだ。／彼らは人に望みをおかず、／人の子らに期待をかけない。

**Mic 5:8** ヤコブの残りの者は異邦の民の中、／多くの国々の民のただ中で、／森の獣の中の獅子、／羊の群れの中の若い獅子のようだ。／通り過ぎては踏みにじり、／引き裂いては、一つも、のがさない。

#### ③ 第3のメッセージ

**Mic 7:18** あなたのような神が、ほかにあるでしょうか。／あなたは、咎を赦し、／ご自分のものである残りの者のために、／そむきの罪を見過ごされ、／怒りをいつまでも持ち続けず、／いつくしみを喜ばれるからです。

(3) 以上の預言は、当時の信仰者たちへの励ましであった。

①と同時に、今の私たちへの励ましでもある。